

農業技術 プリズム

赤シソは主に6月以降に収穫する作型で栽培されており、大規模経営では除草の省力化が課題となっています。初期雑草の発生は、赤シソの生育と競合することで収量や機械収穫に影響を与えます。そこで、粒状石灰窒素の表面散布による初期雑草の抑制効果と、被覆資材（長繊維不織布）を併用した場合の影響について検討しました。

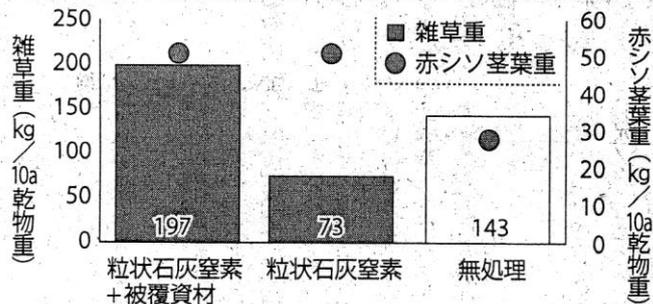
た。被覆資材を使用した場合は粒状石灰窒素を散布しても雑草発生量が197kgと多くなりました。赤シソの初期茎葉重（10㎡当

赤シソ栽培の初期雑草防除

粒状石灰窒素が効果 早めの散布心掛けて

の発生量（10㎡当たりの乾物重）が73kgと無処理の場合の143kgに比べ約半分になりました。

処理の違いによる初期雑草発生量および赤シソ初期茎葉重



粒状石灰窒素は保管中の吸湿により粒状が崩れ散布が困難になり、施肥や抑草の効果も低減しますので早めに使用しましょう。（干拓営農研究部門 草原典夫）